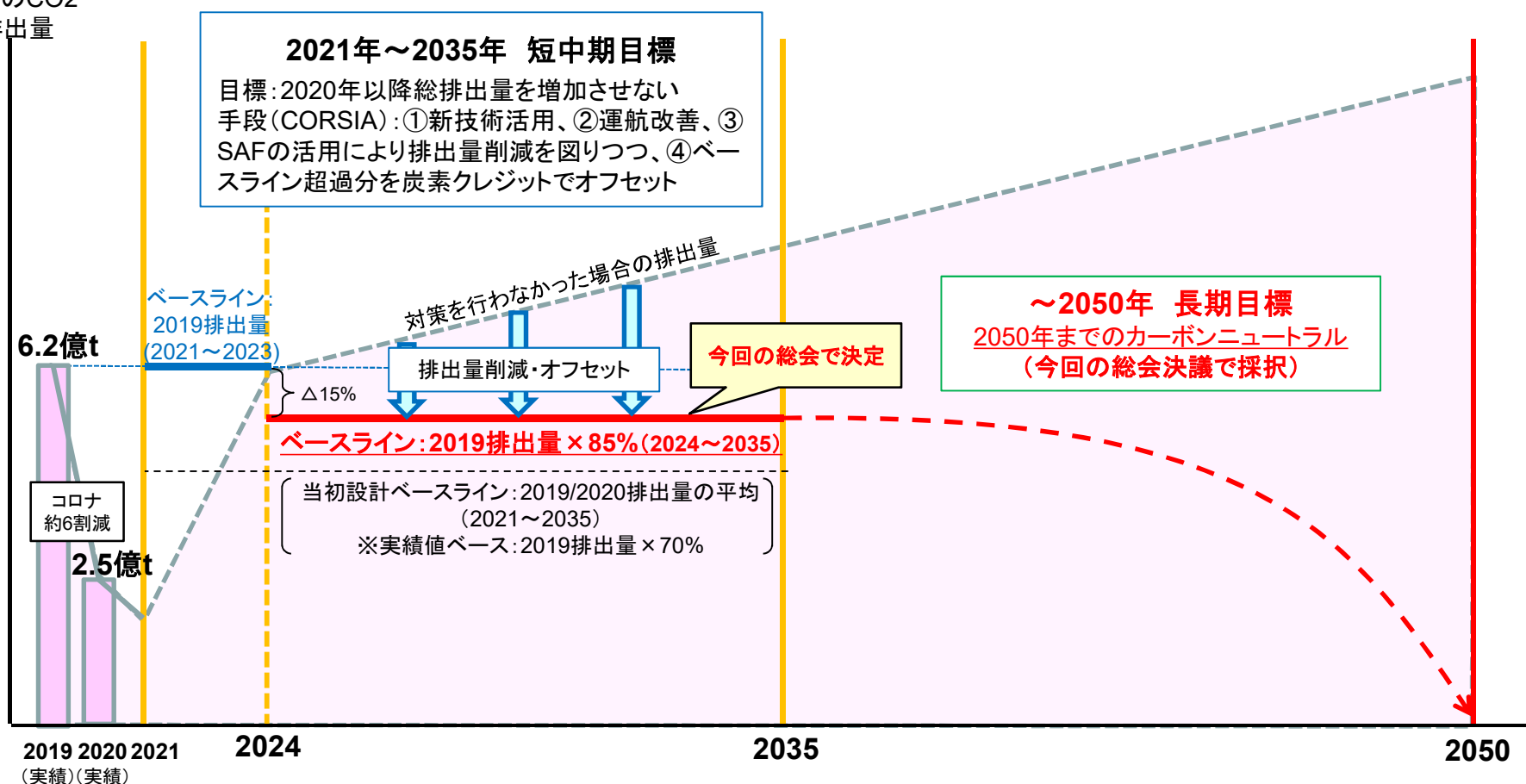


第41回ICAO総会における環境関係の決定概要

- 国際航空分野のCO2排出量は世界全体の約1.8%（6.2億トン）を占め、パリ協定や国際海事機関（IMO）では、CO2削減に係る長期目標が設定されているが、国際航空分野の気候変動対策を担当する国際民間航空機関（ICAO）では設定されていなかったところ。
- 第41回ICAO総会（2022年10月）において、**2050年までのカーボンニュートラルを目指す脱炭素化長期目標を採択**するとともに、2035年までの取組について**オフセット量算定の基準となるベースラインを2019年の85%に変更**すること等を決定。

国際航空全体
からのCO2
排出量



国際航空のCO2削減：市場メカニズム(CORSIAの概要)

導入経緯

新技術の導入・運航方式の改善・持続可能航空燃料の活用をしても不足する部分について、市場メカニズムを活用した制度により対応

- 2016年の第39回ICAO総会において、市場メカニズムCORSIA (Carbon Offsetting and Reduction Scheme for International Aviation)を採択
- 2018年にはCORSIAに係る条約附属書が採択

市場メカニズムを活用した排出削減制度

最大離陸重量5,700kg以上の航空機の国際線運航者を対象に以下を義務化

	2019年～2020年	2021年～2026年	2027年～2035年
排出量の把握(MRV)	全ての国を対象 (ベースラインの設定)	全ての国を対象	全ての国を対象
カーボンオフセット (ベースラインより増加した排出量を各運航者に割当。運航者は炭素クレジット又は持続可能航空燃料等を用いて割当量を相殺)	-	自発的に参加した国間の航路	自発参加国及び義務国(小規模排出国、後発開発途上国等を除く)間の航路

- 国内では、排出量の把握・オフセットともに、国際航空運送事業者の事業許可要件(航空法施行規則第210条第2項)にて導入済